STATE OF TESTING™

REPORT 2019

テストの現状調査

レポート 2019

Brought to you by: PractiTest

なぜ私たちは他のテスターが何をしているのかを知りたいのでしょうか？

何をしているのかあなたはご存知ですか？これは本当に良い質問ですね！

他のテスターがどうやっているか、そしてなぜそうしているのかを知ることは価値のあることだと信じています。

「テストの現状調査プロジェクト」を開始した当初の目的はシンプルにテスターがどのように日々テストしているかを可視化することでした。これによって、どの活動に投資すべきか、何を学ぶべきか、進むべき正しい方向を掴むのに役立つガイドやベンチマークを作りたかったのです。この当初の目的は調査している私たちだけではなく他の人達にとっても達成できたと自負しております。

このプロジェクトを続けていて、この活動は世の中に更に価値を提供できるかもしれないということに気づきました。具体的には毎年、ただ単に解消可能な問題を見つけられるようにするだけではなく、テストの世界がどの位置にあるのかが分かるトレンドを示すことです。さらにトレンドを追うことで、「テスター」という職業がどの方向に向かっているのかを推測する、あるいは（大げさではない言い方にすると）考えることもできます。

データを見るとこの世界で進化が起こっていることがわかります。特定の場所では革新的な事が起こっていますが、全体をみるとゆっくりとそして安定的に進化していることが見て取れます。これはある意味良い傾向です。なぜならば、緩やかな進化が良いことは歴史が証明しているからです。一般的に急速な革命は落ち着けば消えてなくなりますが、緩やかな進化は決して止まりません。

毎年のようにこの調査に協力していただいた皆様に感謝します。特にこの質問に答えてくれた1000人以上のプロのテスターに対して感謝しています。また、多忙にもかかわらずフィードバックとアイデアを提供し、このプロジェクトを推進し続けてくれたレビュー委員会の下記の皆様にも感謝いたします。Lisa Crispinさん、Damian Synadinosさん、辰巳 敬三さん、John Thomasさん、Anna Royzmanさん、Huib Schootsさん

さぁテストの世界で何が起こっているのかを理解し、そして前進し続ける方法をこのレポートから読み取りましょう。

Joel & Lalit

テストの現状調査レポートについて

テストの現状調査は世界規模で行われている最大のテストの調査です。

この調査は80ヶ国以上から1,000人以上の回答者が参加することによって、テストの専門性と世界のテストコミュニティに関するもっとも正確な情報を提供することを目的にしています。毎年調査を実施し、現状と将来の動向を把握しています。

この調査は、テストブロガーやオピニオンリーダーの協力によって実現されています（巻末の「ご協力いただいた方々」をご覧ください）。今回の調査は、テスターであるあなたに、世界のテスターや会社と比較して自身の専門性をよりよく理解し、現状と将来の動向に基づいてより良い準備をするための手助けをします。テスターからのフィードバックは大歓迎ですので、何かありましたら気軽に連絡してください。

* 昨年までと同様に、今年も複数の翻訳版が作成されることを期待しています。あなたの国の言語に翻訳したい方がいらっしゃいましたら私たちにお知らせください。

© 2019 - PractiTest & Tea-Time with Testers. All rights reserved.

目次

第1章 ー 回答者の統計情報 1

第2章 ー 教育とトレーニング 6

第3章 ー 組織におけるテスト 13

第4章 ー 自己啓発 29

おわりに 35

ご協力いただいた方々 36

> 毎年調査を実施することで、テストコミュニティの現状と将来の動向を理解することができます。

【テストの現状調査2019 日本語翻訳チームから】
このレポートは、イスラエルのPractiTest社のJoel Montvelisky氏とインドのTea-Time with Tester誌発刊者のLalitkumar Bhamare氏が2013年から毎年実施している『State of Testing Survey』の6回目となる2019年版のレポートを翻訳したものです。（第1回調査は2013年秋に行われ2014年1月にレポートが発行されたため2014年版は欠番）
今回の調査は2019年1 ～ 2月にWeb上で行われ、日本を含む87ヶ国1,000人以上のソフトウェアテストのプロフェッショナルから回答があったそうです。
この調査では毎回同じ質問をしてテストコミュニティの動向変化を把握するとともに、最近のトレンドに基づく新しい質問項目を加えることで最新の状況も把握しています。2019年はDevOpsやシフトレフトテスト／シフトライトテストなどに関する質問が追加されて45項目になりました。質問項目やレポートの作成にあたっては世界の著名テスターからなるレビュー委員会の助言を受けています。今回のレビュー委員会は翻訳チームの辰巳もメンバーとなっています。
第1回レポートから翻訳作業をしていますが、ここ2 ～ 3年アジャイルやDevOpsの進展にともなってテストチームやテスト技術の状況変化が早くなっているように感じます。このような変化の中にある読者のみなさんがより良いテスターライフを送るためのヒントをこの翻訳版レポートから読み取っていただけるよう願っています。

2019年9月
日本語翻訳チーム：根本 紀之、辰巳 敬三、やの よしを、鈴木 里惇、飯島 茂恵子、藤原 史和、山下 颯太

© 2019 - PractiTest & Tea-Time with Testers. All rights reserved.

回答者の統計情報

© 2019 - PractiTest & Tea-Time with Testers. All rights reserved.

あなたの現在のテスト担当者としての職位は

次のうちあなたの職責と肩書に最も近いのはどれですか？

27%
テストエンジニア／QAエンジニア

23.5%
テストリード／マネージャー／ディレクター

20.5%
テスター／テストアナリスト

7.5%
自動化専門テスター

2.5%
チームリーダー

2%
コンサルタント

2%
テスト開発者／SDET

2%
テストアーキテクト

1%
テストコーチ

0.5%
DevOpsエンジニア

<0.5%
一体化したチームのエンジニア

0.5%
性能担当テスター

1.5%
プロジェクトマネージャー

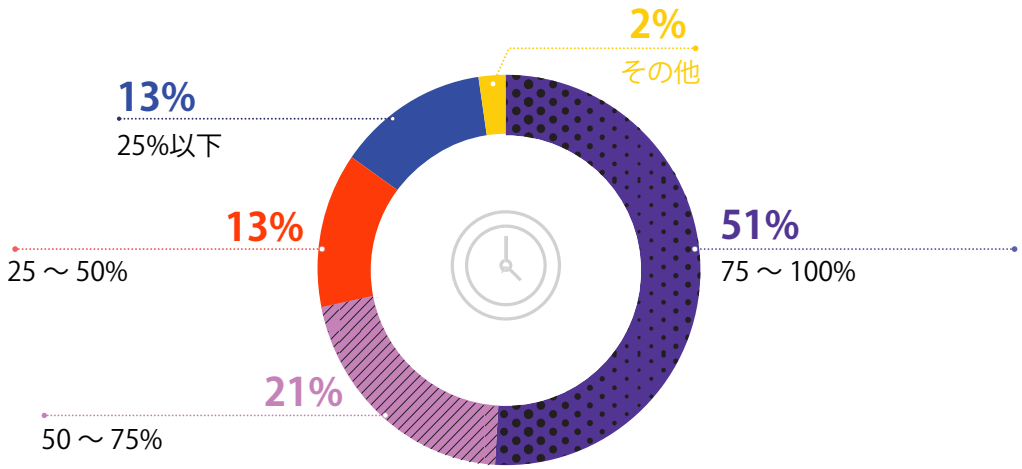
2.5%
ソフトウェアエンジニア

6.5%
その他

回答者の肩書の変化はあまり見られません。昨年の結果から「一体化したチームのエンジニア」の割合がわずかに増加すると予想していましたが、今年は増加傾向は見られませんでしたので、引き続き今後の動向に注目していきたいと思います。

テストの仕事が全てですか？

あなたの職務でテストの活動は何パーセントの割合を占めていますか？



この質問は今回で2回目ですが、テストの割合が50%未満と25%未満の人がわずかに増え、その分「75 ～ 100%」が減った程度で、相対的には昨年と同じような数値でした。これは、テスターの職務には汎用性が必要であり、チームに付加価値を与える様々な分野で貢献、活躍することが求められているということを示しています。

あなたはどのような分野や領域のことを知りたいですか？私たちがどのようなタスクに貢献を求められているのか、以降のページで一部を紹介しますので読み続けてみてください。

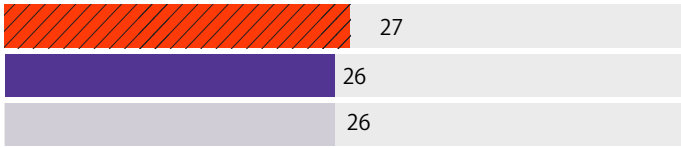
© 2019 - PractiTest & Tea-Time with Testers. All rights reserved.

あなたのテスト分野での経験

どのくらいの期間テストの仕事をしていますか？

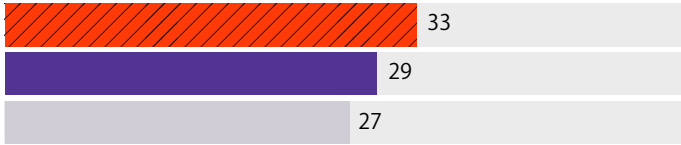
1年未満

5 ～ 10年

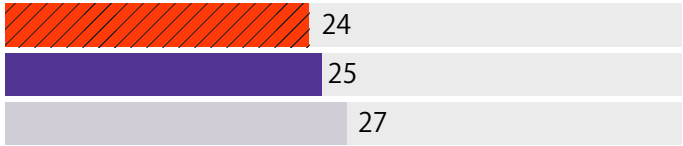


1 ～ 2年

10年以上



2 ～ 5年



2019
2018
2017

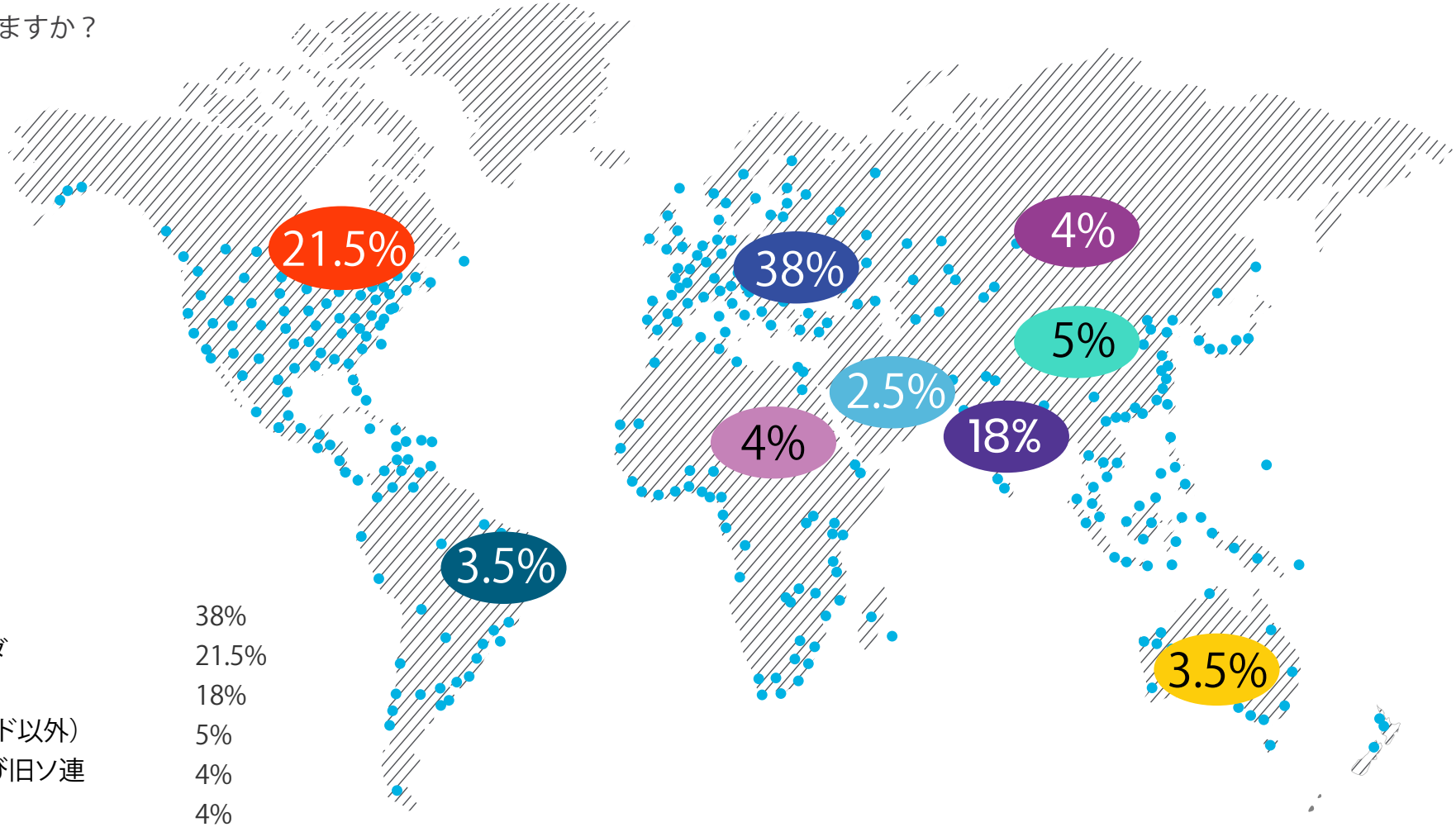
トレンドを見つけるには、数年間の数値の状況からデータを見るのがよい方法ですが、ここでは、テスターはより長い期間同じ分野にいることが一般的な傾向になっており、テストの専門家として経験を長く積んでいる人が増えていることが見て取れます。

一方、新しくテスターになる人の数が減っていますが、1、2点のデータでトレンドを判断せず、よくデータを見る必要があります。この集計では「1年未満」のテスターの数は、昨年は増加が見られましたが、今年は急激に減少しています。

© 2019 - PractiTest & Tea-Time with Testers. All rights reserved.

あなたの働いている地域は ...

どの国で働いていますか？



ヨーロッパ	38%
USA／カナダ	21.5%
インド	18%
アジア（インド以外）	5%
ロシアおよび旧ソ連	4%
アフリカ	4%
オーストラリア／ニュージーランド	3.5%
ラテンアメリカ	3.5%
中東	2.5%

回答者の国・地域が拡がっていることを嬉しく思います。また、フィードバックに基づいて調査結果の表示方法を改善することも嬉しく思っており、今年は一部の国・地域のグループ化を見直して少し調整しました。

© 2019 - PractiTest & Tea-Time with Testers. All rights reserved.

テスターの給与

いくら稼げるかは国と経験によります。

	1年未満	1～2年	2～5年	5～10年	10年以上
アフリカ	NA*	11K	33K	63K	94K
アジア	12K	16K	30K	36K	48K
インド	11K	19K	21K	28K	45K
ラテンアメリカ	5K	5K	19K	22K	23K
中東	NA*	NA*	NA*	23K	NA*
東ヨーロッパ／ロシア	16K	20K	20K	24K	40K
西ヨーロッパ	16K	31K	43K	56K	72K
オーストラリア／ニュージーランド	NA*	65K	70K	85K	112K
北アメリカ	51K	70K	78K	87K	115K

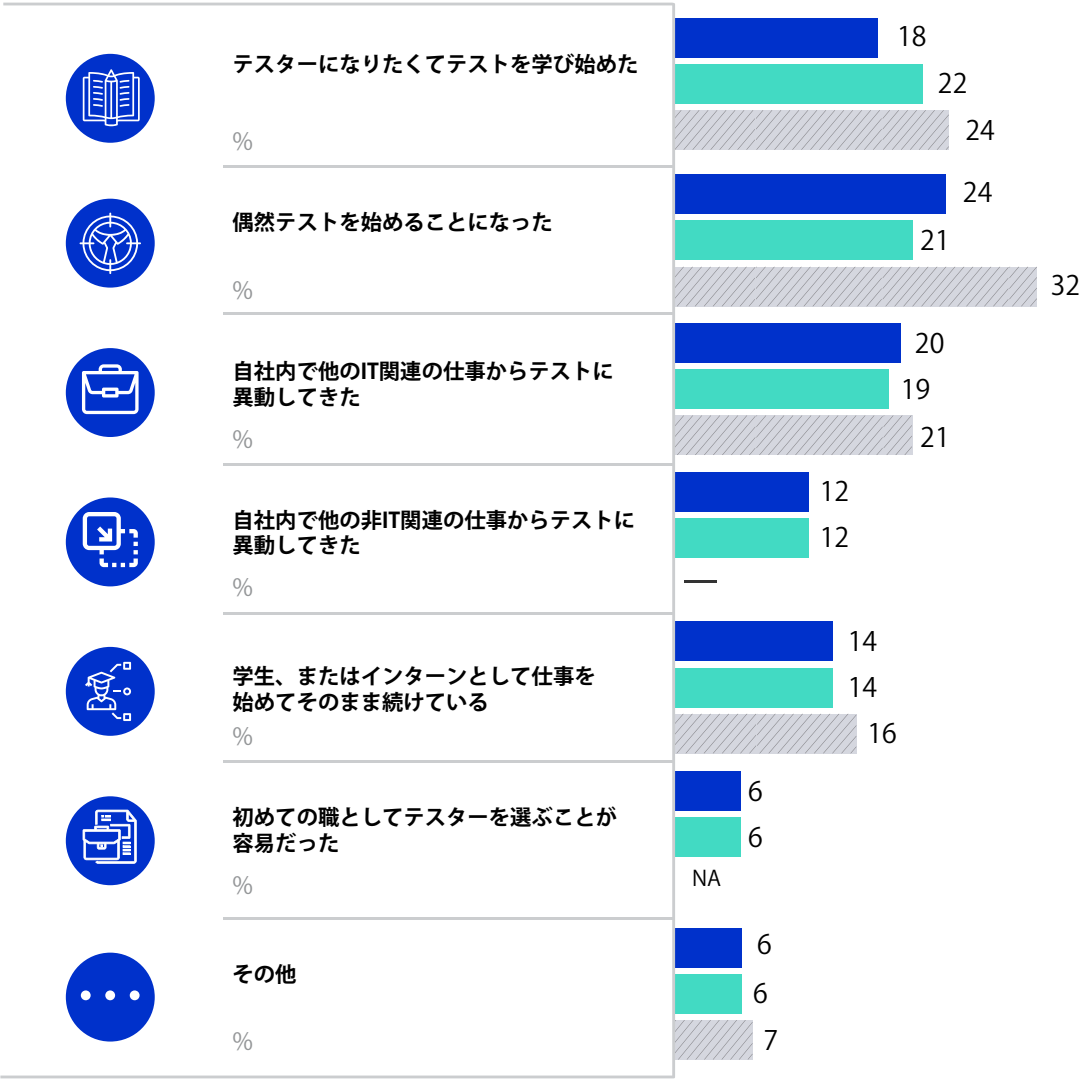
* 十分なデータが無いため計算不可。
全ての数値はUSドル。

© 2019 - PractiTest & Tea-Time with Testers. All rights reserved.

教育とトレーニング

どのようにしてあなたはテスターになったのですか？

何をきっかけにテストの仕事を始めましたか？



産業界（IT系と非IT系の両方）の人はテストをキャリアパスと見なしているので、自社内の他の仕事からテストに移動した人の数は（IT系からと非IT系からの移動を合算すると）テスターになるための最大の入り口になっています。今後数年間、念頭において確認すべきことは、一からテストを学ぶ人が今後も減少する傾向が続くのか、そしてこれが私たちの職業にとって何を意味するのかということです。

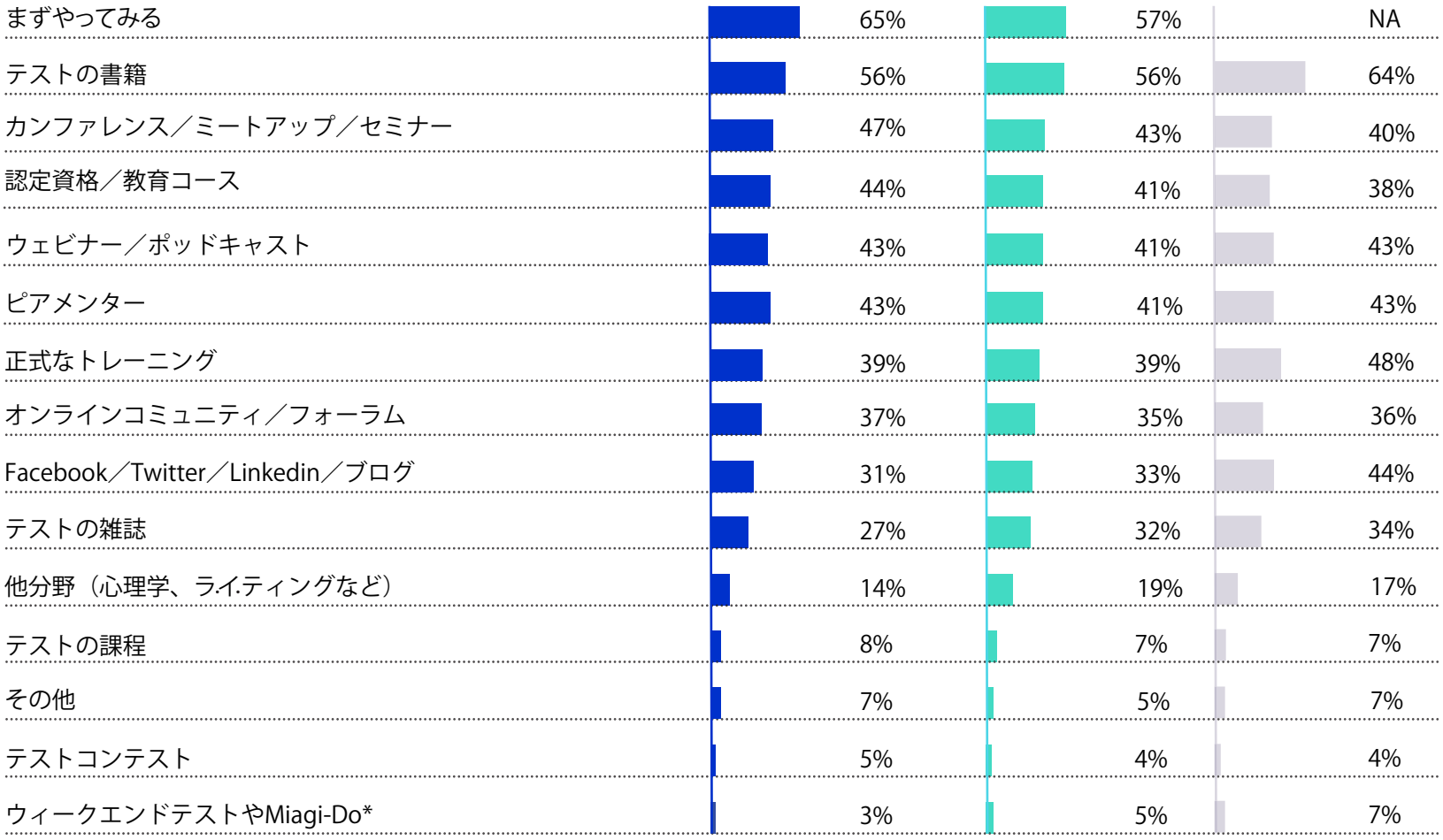
全体的に見ると、他の仕事や役職からテストに移ってくる人が増え続けており、私たちが繁栄している業界の魅力的なキャリアで働いていることを示しています。

- 2019
- 2018
- 2017

© 2019 - PractiTest & Tea-Time with Testers. All rights reserved.

どのように「テスト」を学んでいますか ー 現在、そして仕事を始めた時

知識を高め、テストのスキルを磨くために、現在、もしくは以前から続けて用いている方法は何ですか？



ここでの数値に加えて、回答者が自由欄に記入した「その他」の具体的な内容を見るのをいつも楽しみにしています。
今年は、以下のような興味深い回答がありました：
クラウドソーシング、書いて話すこと（これは私たちのお気に入りの回答です）、Youtubeの動画、Udemy*、自社の他のテスターとしゃべること。
正に学習の糧ですね！

【日本語翻訳チームコメント】
* Miagi-Do
http://www.shino.de/tag/miagi-do/
Miagi-Doの由来はご存知ですか？
名前は映画ベスト・キッド（The Karate Kid）で主人公の少年に空手を教える日本人の老人のミヤギさんから来ています。Doは「道」です。欧米ではテストやソフトウェア開発の手法の用語として、型（kata）とかの日本語用語が使われたりしています。

* Udemy
https://www.udemy.com/
誰でも先生になって自分の講座をインターネット上に公開できる教育プラットフォームです。英語が中心ですが、11の言語に対応しており、日本語の講座も公開されています。

© 2019 - PractiTest & Tea-Time with Testers. All rights reserved.

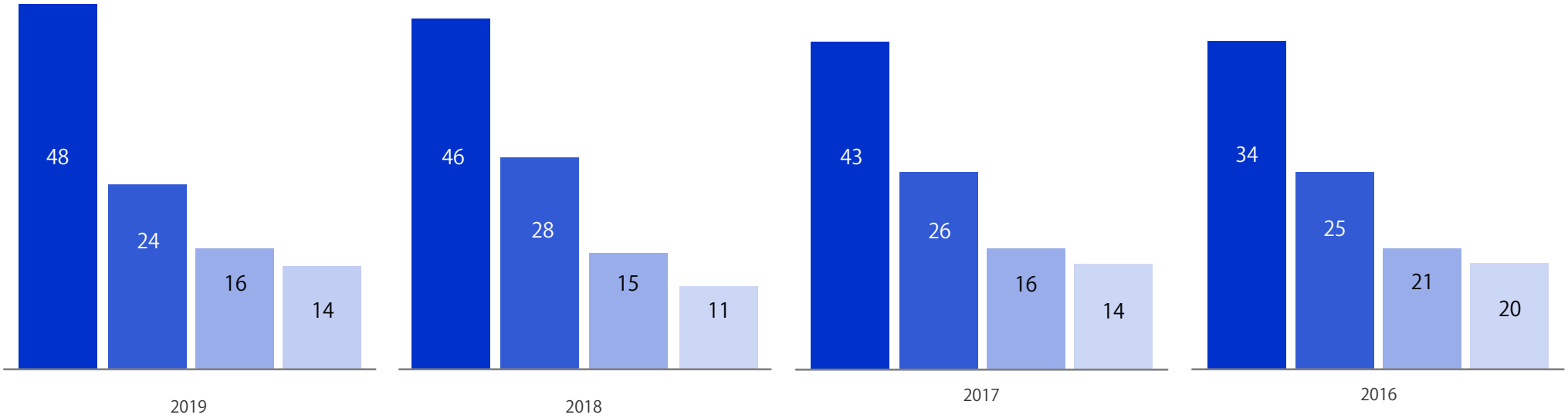
過去3年間にカンファレンスや講習会に参加しましたか？

過去3年間に公式、あるいは非公式な講習会、カンファレンス、セミナーなどに（ネット上での参加を含め）参加しましたか？

OnlineTestConf	TestBash	Agile DevOps East	StarWest	Automation Guild	QualityJam	Eurostar	Let's Test South Africa
AgileTestingDays	heisenbug-moscow	WeTest Conference	Romanian Testing Conference	JaSST	COMAQA	GTAC	QA or Highway Conference
SauceCon	qa: challengeaccepted	HUSTEF	Expo QA	Tabara de testare	Selenium Conference	ASTQB Summit	QA Fest
Testİstanbul	Test Leadership Congress	Nordic Testing Days	copenhagen Context	PNSQC	National Software Testing Conference, (UK)	CAST	Rapid Software Testing
QA&Test	STP Conf	StarEast	TestLeadership Conference	StarCanada			

© 2019 - PractiTest & Tea-Time with Testers. All rights reserved.

テストチームの規模 %



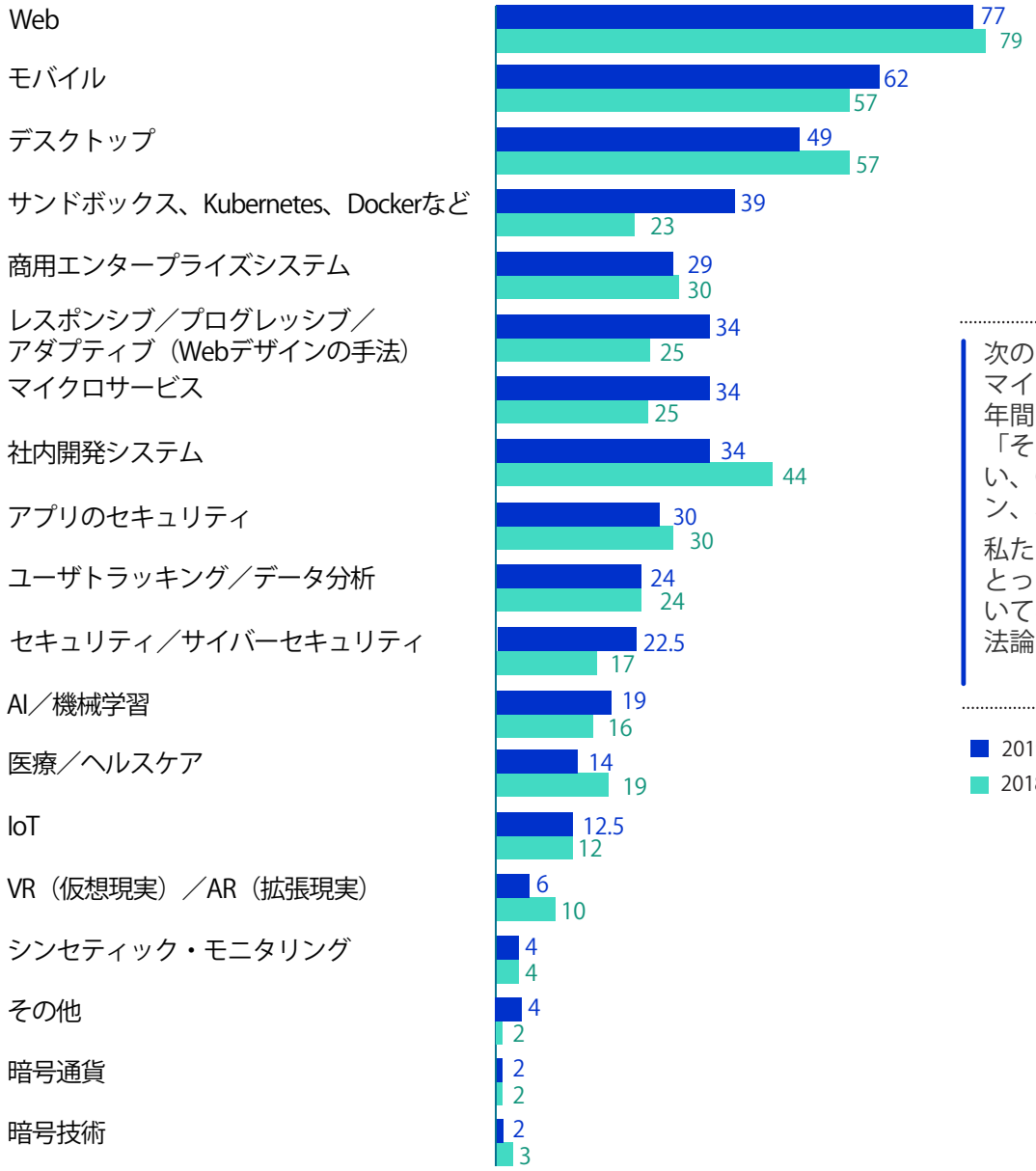
- 1～5人のテスター
- 6～15人のテスター
- 16～50人のテスター
- 51人以上のテスター

明らかな兆候として、テストチームの規模が年々小さくなっています。私たちは、これはアジャイルやDevOpsの採用と直接関連があり、そしてより多くのテスターが大きな機能横断型のチーム内で、単独、もしくは少人数で働いているためと考えています。

そうは言っても、小さなチームは私たちの業界においては当たり前とは言えず、大規模な、あるいは超大規模なテストチームの数は依然として無視できません。

© 2019 - PractiTest & Tea-Time with Testers. All rights reserved.

テスト対象のシステム／技術 %



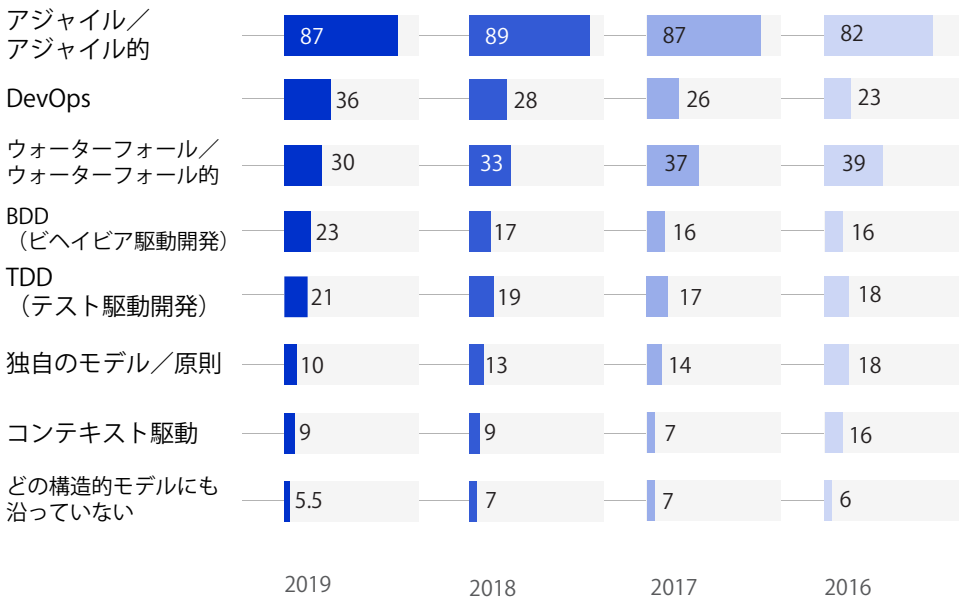
次のような分野が増加していることに注目してください ：
マイクロサービス、コンテナ、セキュリティ、AI／機械学習。これらは全て、今後数年間は関連性を持ち続ける技術です。
「その他」の回答には、次のような技術がありました ： ジオコーディング*、支払い、CRM（顧客関係管理）、公共サービス、eDiscovery（電子証拠開示）、仮想マシン、、、などなど。

私たちは、新しい技術や分野の登場、およびそれらがもたらす課題は、テスターにとってより多くの好機につながるものと考えています。私たちは、これらの分野について学び、それらをテストするためのユニークな戦略、ツール、フレームワーク、方法論を考え出す必要があります。

【日本語翻訳チームコメント】
* ジオコーディング
住所や地名、駅名などの地理的情報を、緯度／経度の地理座標値に変換する技術。

© 2019 - PractiTest & Tea-Time with Testers. All rights reserved.

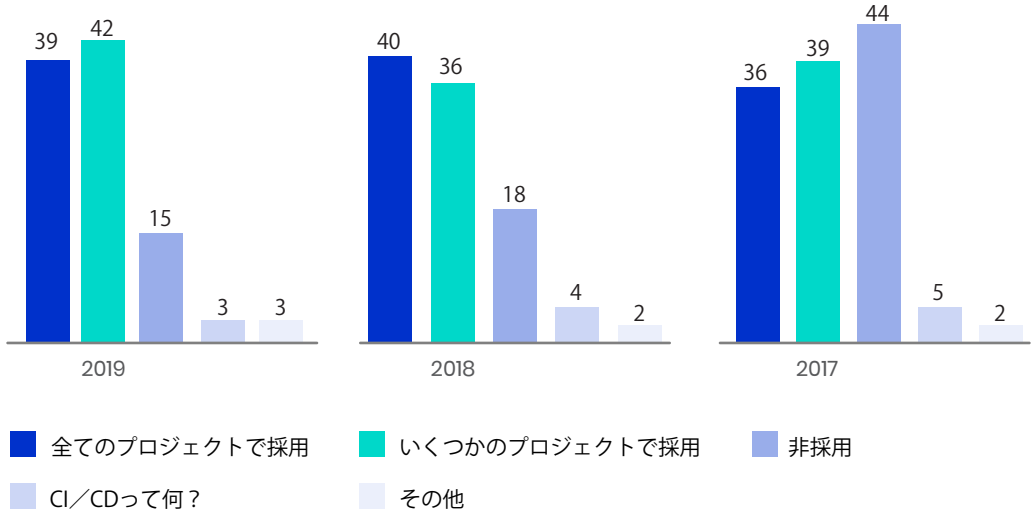
開発／テストモデル %



アジャイルは、依然として最も採用されている開発アプローチであり、私たちは今後何年もの間、この傾向が続くと考えています。興味深く、かつ重要なことは、DevOpsが初めてウォーターフォールを抜いて2番目のモデルとなったことです。これは、DevOpsの人気が高まっている（今年は8%も増えました！）一方で、ウォーターフォールは徐々にではあるが間違いなく採用されなくなっていることに起因しています。

BDD（ビヘイビア駆動開発）とTDD（テスト駆動開発）が増加していることも注目に値します。

あなたの組織ではCI（継続的インテグレーション）やCD（継続的デプロイ）を使っていますか？ %



ここで最も興味深い点は、「非採用」が過去3年間でいかに減少したかです。ほとんどの組織がCI／CDを使うようになっており、これはテスターにとって非常に良いニュースだと考えています。問題は、私たち（あなたたち？）がこのプロセスにどのくらい関与しているかです。

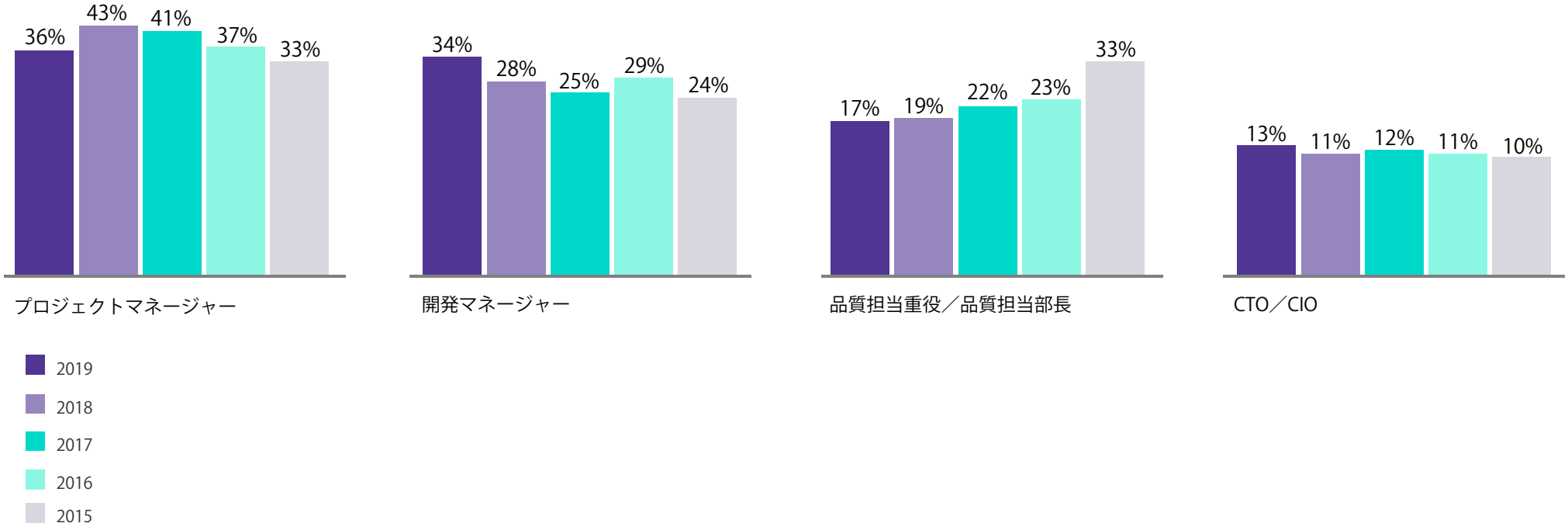
念のために言うと、ジョブ内で実行されるテストがCIにとって不可欠な部分です。それが取るに足らないものでない限り、テストや結果の定義と分析を担うべきです。

© 2019 - PractiTest & Tea-Time with Testers. All rights reserved.

組織におけるテスト

あなたの組織ではテスト部門は誰に報告をしますか？

社内のテストチームまたは個々のテスターに責任を負う直属の上司の肩書きは何ですか？

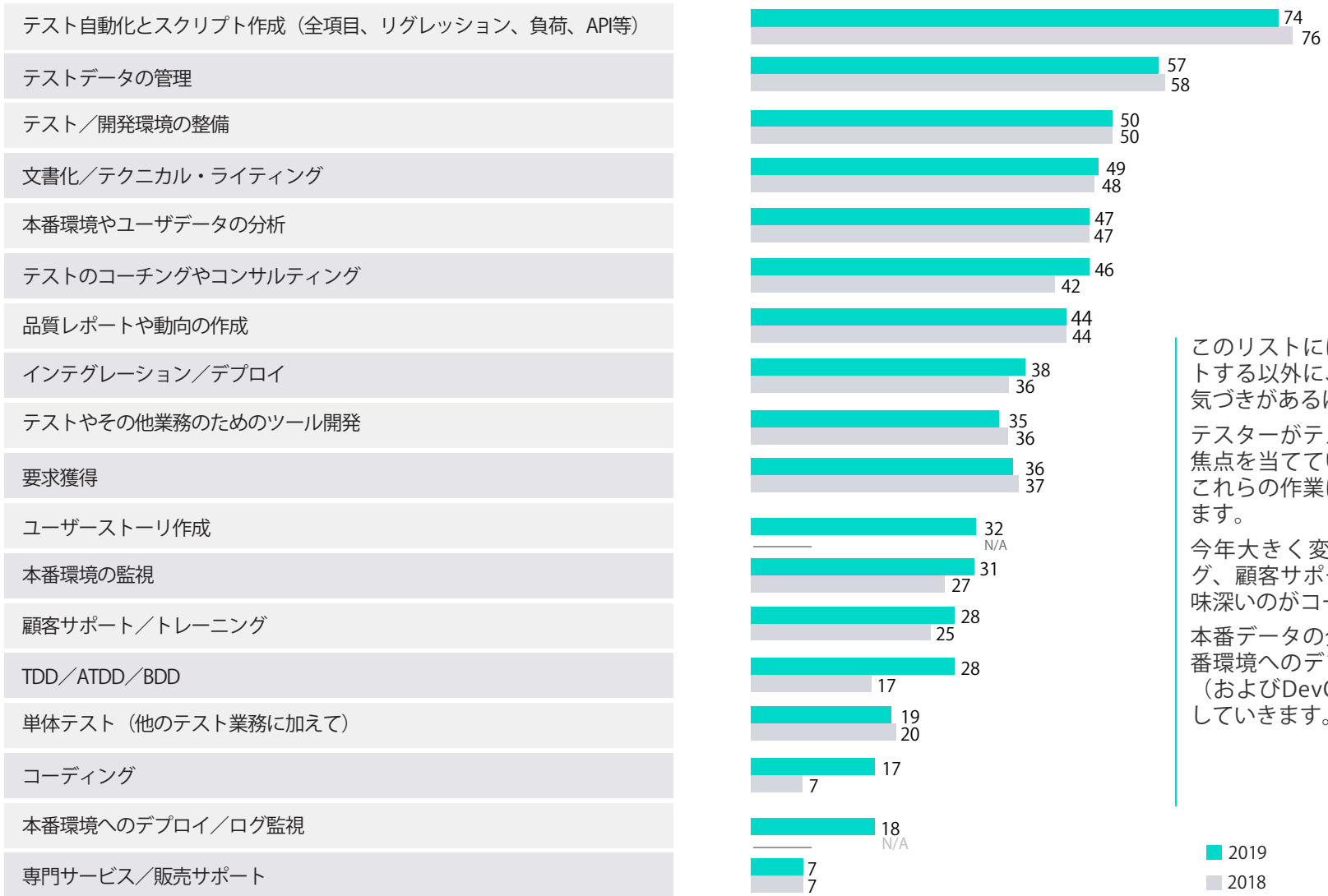


この図からテスターが、より小規模でよりアジャイルなチームの一員であることを示すもう1つの兆候が見て取れるでしょうか？たぶんこれが、テスターから開発マネージャーやCTO／CIOへの報告が増え、品質担当部長や品質担当重役への報告が少なくなっている理由です。

© 2019 - PractiTest & Tea-Time with Testers. All rights reserved.

組織におけるテスターの作業 %

テスト以外に、テスターは組織内でどのような作業をしているのでしょうか？（複数回答あり）



このリストには、アプリケーションを手動でテストする以外に、やるべきことについていくつかの気づきがあるはずです。

テスターがテストデータの生成と環境の準備にも焦点を当てていることが分かり嬉しく思います。これらの作業はチーム全体でのテストを可能にします。

今年大きく変動した項目は、テストのコーチング、顧客サポート、TDD／BDD、そして非常に興味深いのがコーディングです。

本番データの分析（既に47%を占めている）と本番環境へのデプロイ／ログ監視のような本番環境（およびDevOps）に関する作業についても注目していきます。

© 2019 - PractiTest & Tea-Time with Testers. All rights reserved.

テストドキュメント %

テスターは社内でどのような種類のテストドキュメントを作成していますか？（複数回答あり）

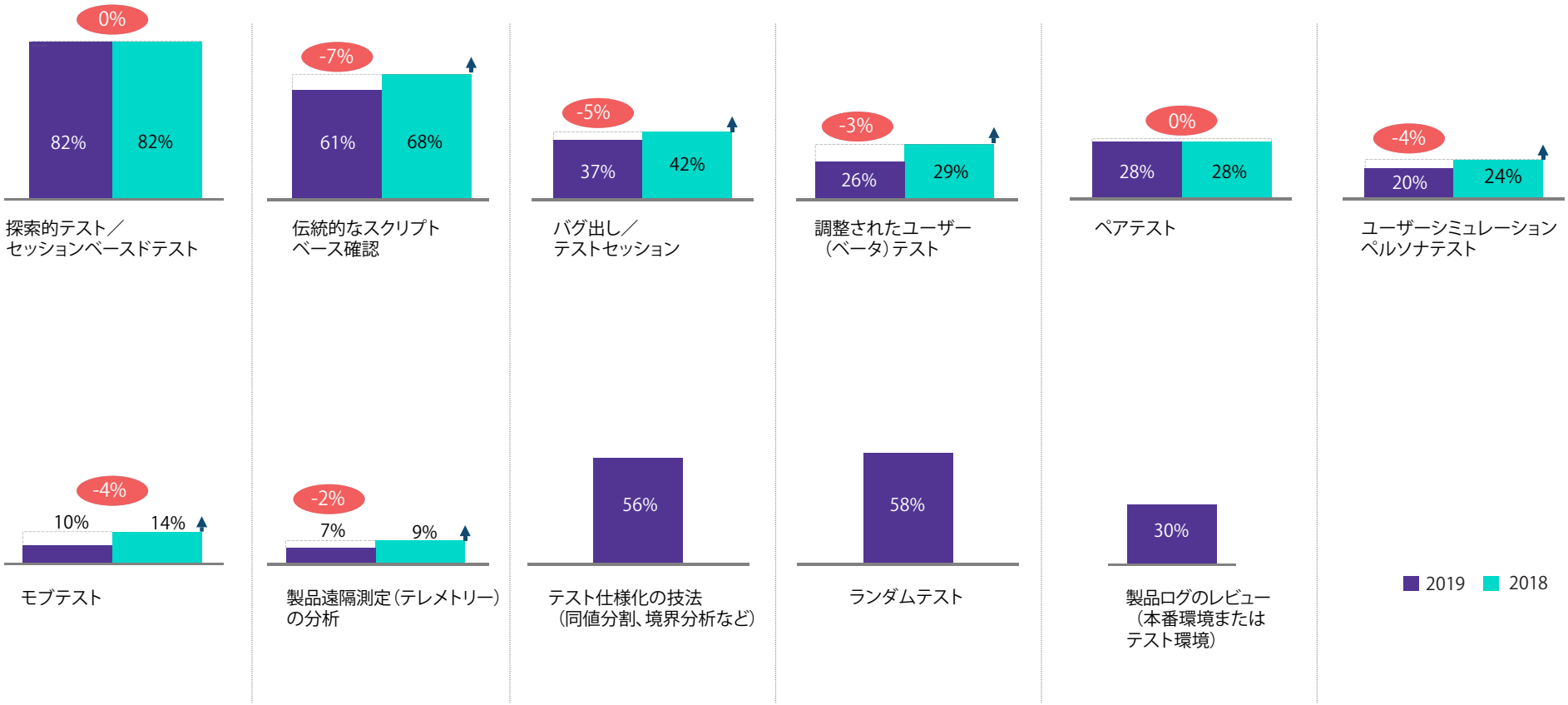
	2019	2018	2017
バグレポート	79	NA	NA
テストレポート	65	61	NA
上位テスト計画	53	61	63
チェックリスト	52	51	56
詳細テストスクリプト	45	50	56
下位テスト計画	36	39	45
ダッシュボード	33	34	NA
マインドマップ	29	27	26
テスト全体計画	26	NA	NA
製品／テストカバレッジ概要	26	NA	NA
テストチャーター	20	20	20
ライブドキュメント	20	15	18
リーンドキュメント	12	18	19

全体的にテストドキュメントの使用率が下がっています。しかし、テストレポートとマインドマップの両方の使用率は増えています。

© 2019 - PractiTest & Tea-Time with Testers. All rights reserved.

テスト技法と方法論

どのテスト手法を用いてテストをしていますか？（複数回答あり）



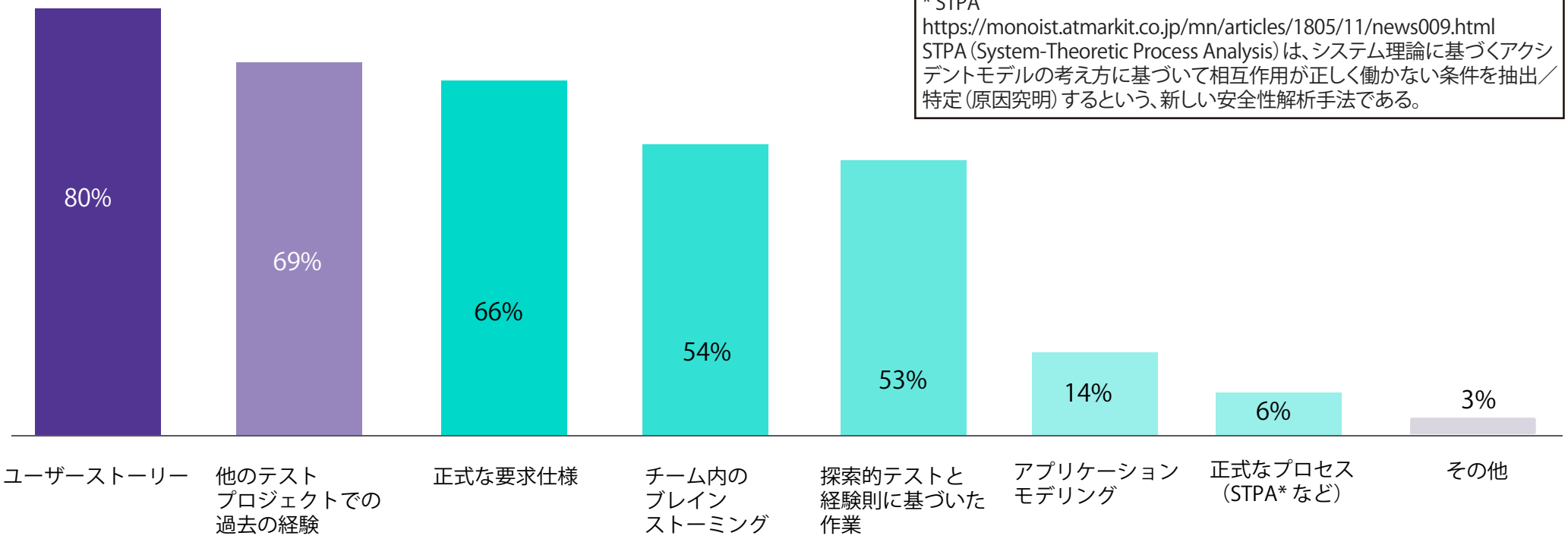
これらの数値は、テスターが多くのスクリプト化技法と探索的テストを組み合わせて、さらにアドホックテストを追加するというように、いかに異なるタイプのテスト技法を取り混ぜて仕事を進めているかを引き続き示しています。テストの計画と設計において、構造化されたテスト仕様化技法が未だ大きな役割を果たしているということもまた興味深いです。

© 2019 - PractiTest & Tea-Time with Testers. All rights reserved.

テストを設計するための情報源

テストを行うために必要な情報はどのようにして得ていますか？

【日本語翻訳チームコメント】
* STPA
https://monoist.atmarkit.co.jp/mn/articles/1805/11/news009.html
STPA（System-Theoretic Process Analysis）は、システム理論に基づくアクシデントモデルの考え方に基づいて相互作用が正しく働かない条件を抽出／特定（原因究明）するという、新しい安全性解析手法である。

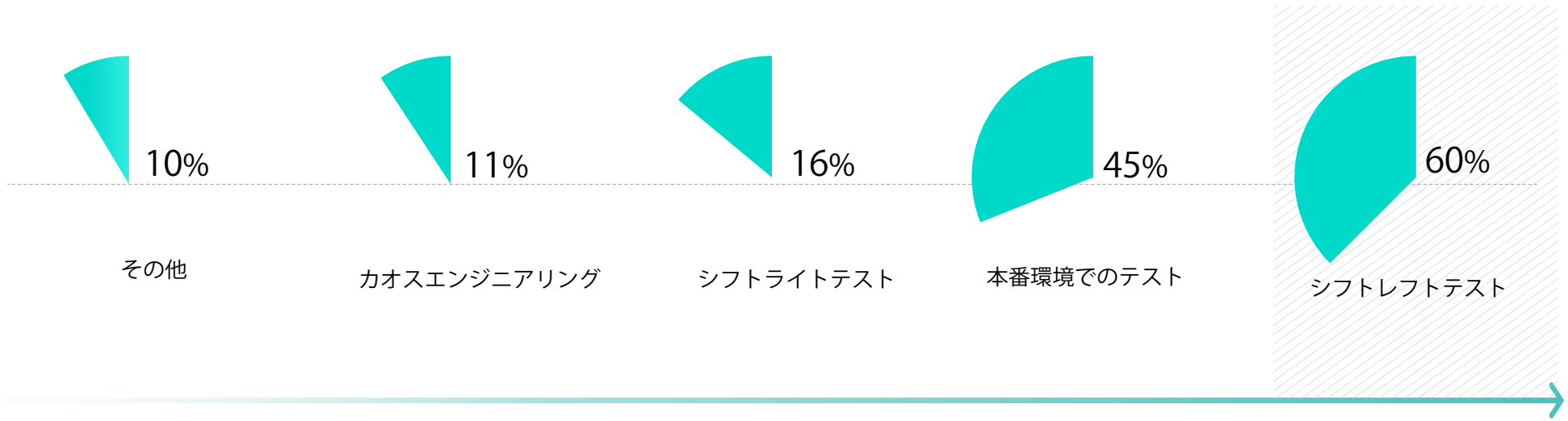


ユーザーストーリーと要求仕様が、情報を取得するための上位上3つの方法に入っていることは驚くことではありません。やはりこれが標準的なやり方なのです。しかし、過去の経験がいかに重要であるか、またチームで協力することがテストのための大きな情報源になっていることも嬉しく思います。

© 2019 - PractiTest & Tea-Time with Testers. All rights reserved.

組織におけるテストプロセスやテスト技法の適用

どのようなプロセスや技法をフォローし、実施していますか？

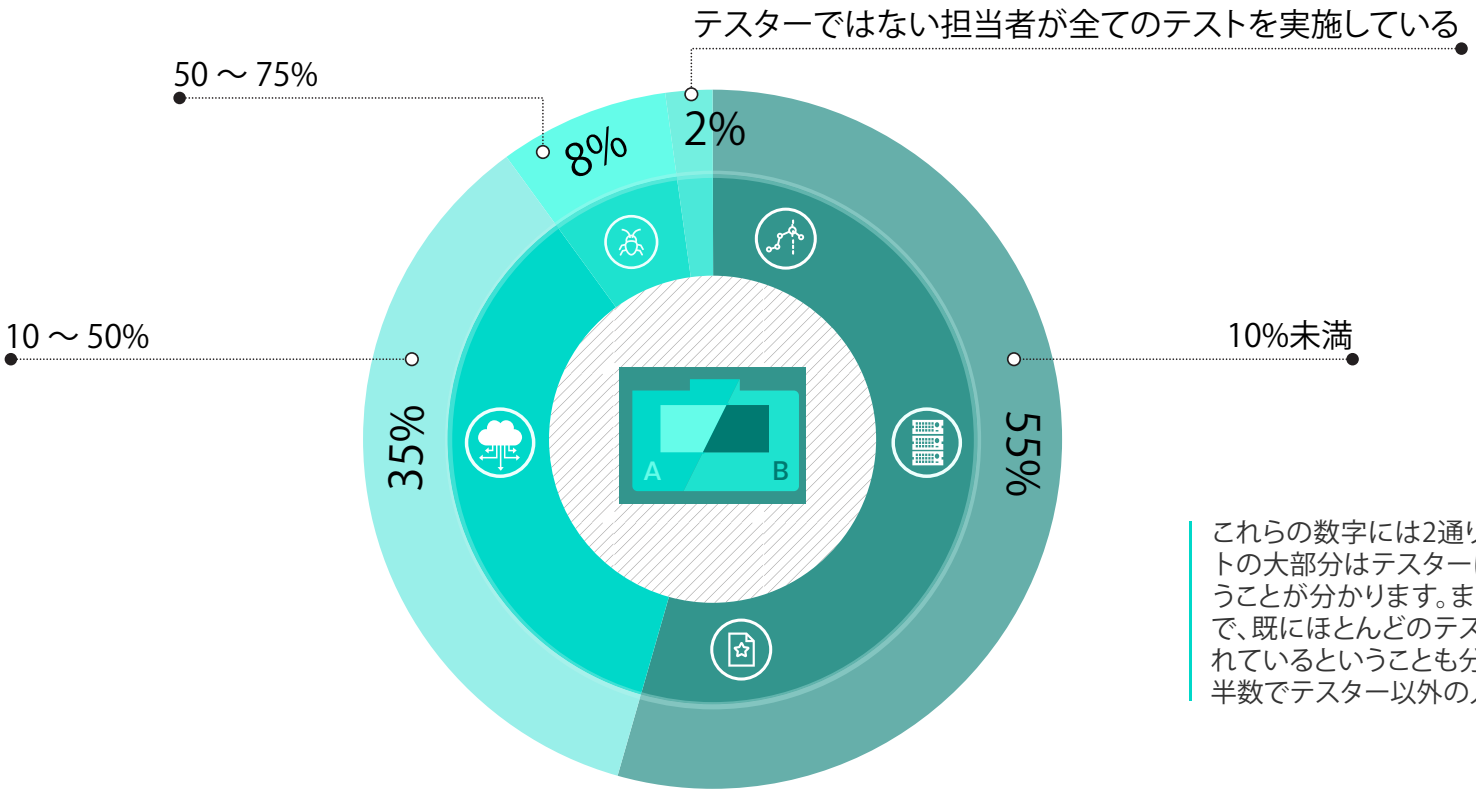


今年の「新しい」質問は示唆に富むものになっています。組織がテストを実施するタイミングを移動していることが分かります（シフトレフトもシフトライトもあります）。しかし、私たちの目に留まったのは、45%近くの回答者が「本番環境でのテスト」を行っていると回答しているのに、この調査項目の別の質問ではDevOpsを使用していると回答したのは36%だけだったことです。問題は、チームが本番環境でテストしていて、そこでバグを見つけた場合、これらの問題を迅速かつ効果的に修正できるようにするために何らかのDevOpsアプローチで作業するべきではないかということです。

© 2019 - PractiTest & Tea-Time with Testers. All rights reserved.

テスター以外によってどれくらいの割合のテストが実施されているでしょうか？

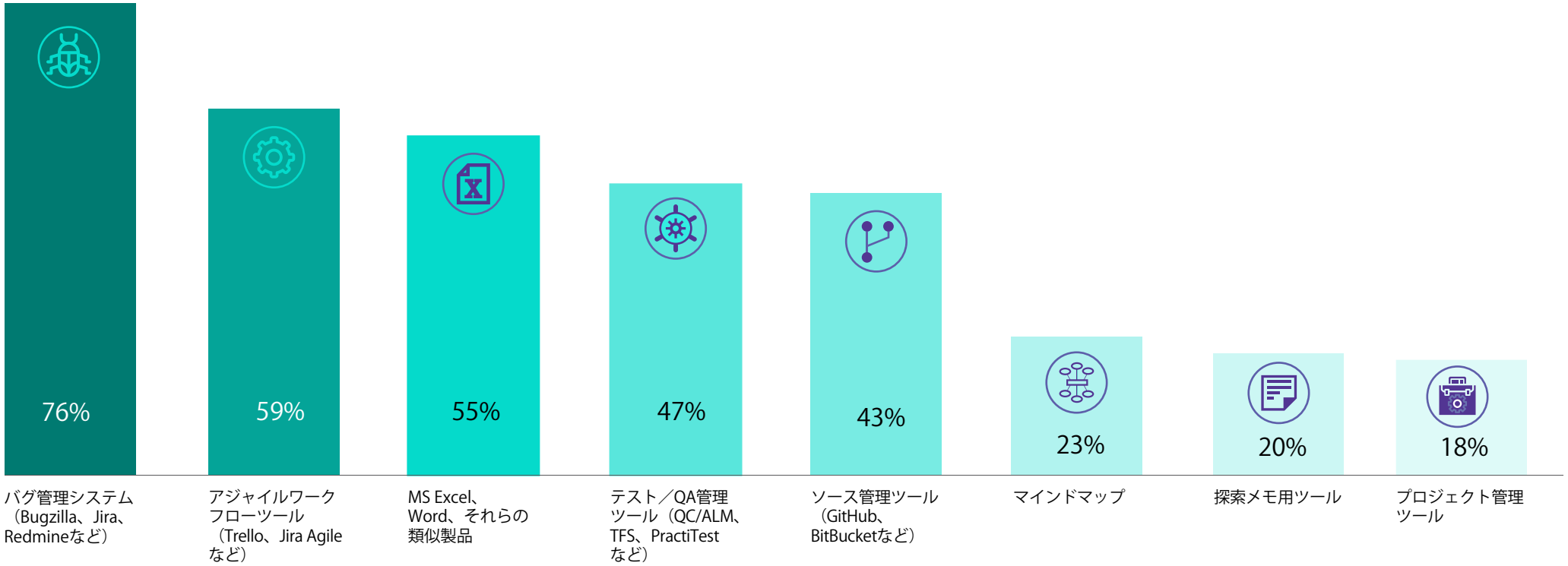
多くの組織では、他のチームメンバーも正式なテストプロセスに参加しています。
（開発者、プロダクトオーナー、サポート、エンドユーザーなど）



これらの数字には2通りの見方があります。一つの見方としては、テストの大部分はテスターによって実施されていることが明白であるということが分かります。また、もう一つの見方としては、10%以上の組織で、既にほとんどのテストがテスターではない担当者によって実施されているということも分かります。そして、全体的に見ると回答のほぼ半数でテスター以外の人が重要な役割を担っています。

テスト管理ツール

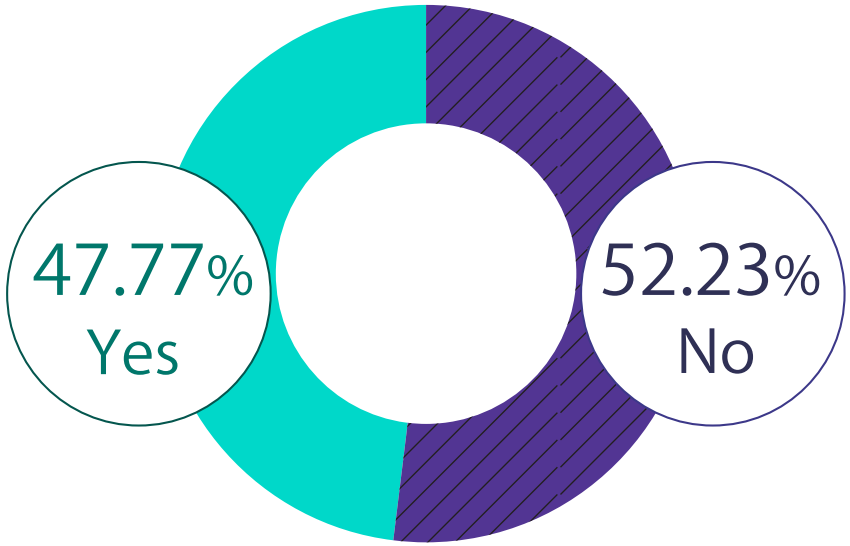
テスト管理にはどのようなツールを使用しているでしょうか？



ますます多くのチームがアジャイル開発を採用しているため、アジャイルワークフローツールがテスト管理ツールの大部分を占めています。またOfficeやEメールなどのテスト以外のシステムや開発システムも重要な役割を果たしています。

© 2019 - PractiTest & Tea-Time with Testers. All rights reserved.

前年中に新しいテストツールを使い始めましたか？

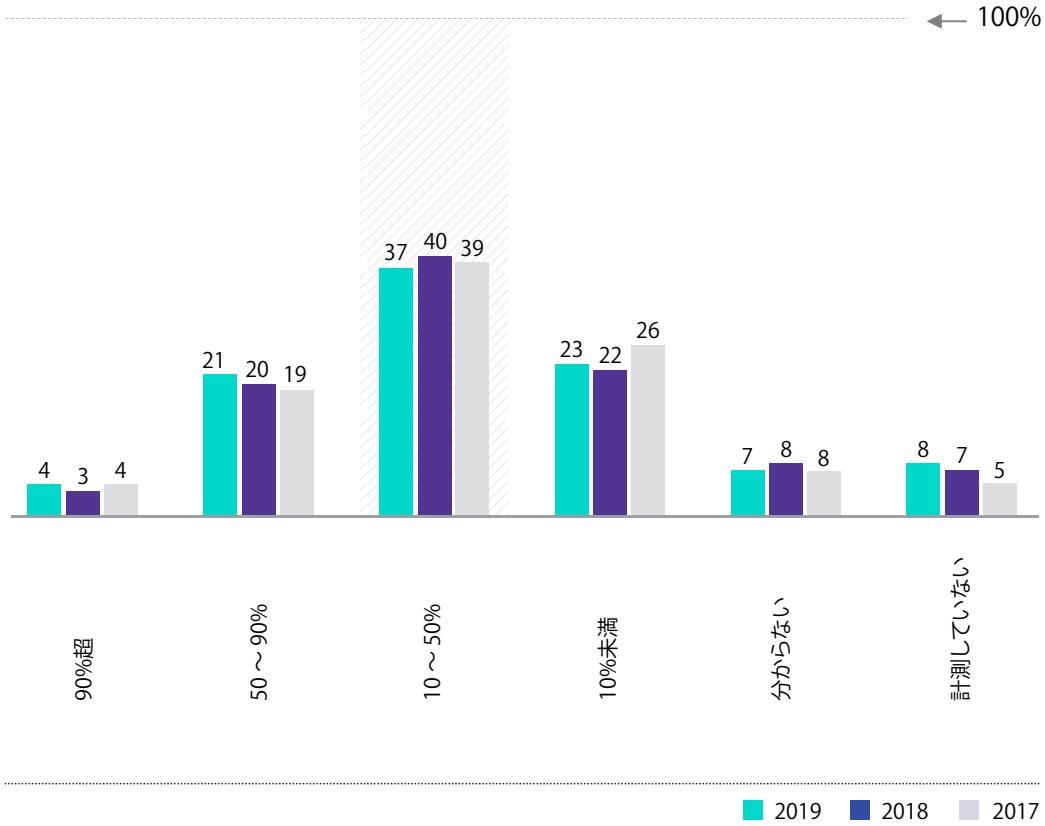


この質問を設けて3年目になります。昨年の調査では、回答者の43%が前年中に新しいツールを採用しました。今年、この数は48%近くまで増えました。

どのようなツールを使い始めたかを自由回答形式で質問したところ、昨年と似たような結果となり、以下のようなツールが挙がりました。

監視ツール、テスト管理ツール、APIテスト、CIプラットフォーム、マインドマップツール、ブラウザプラグイン、セキュリティスキャンツールなど。

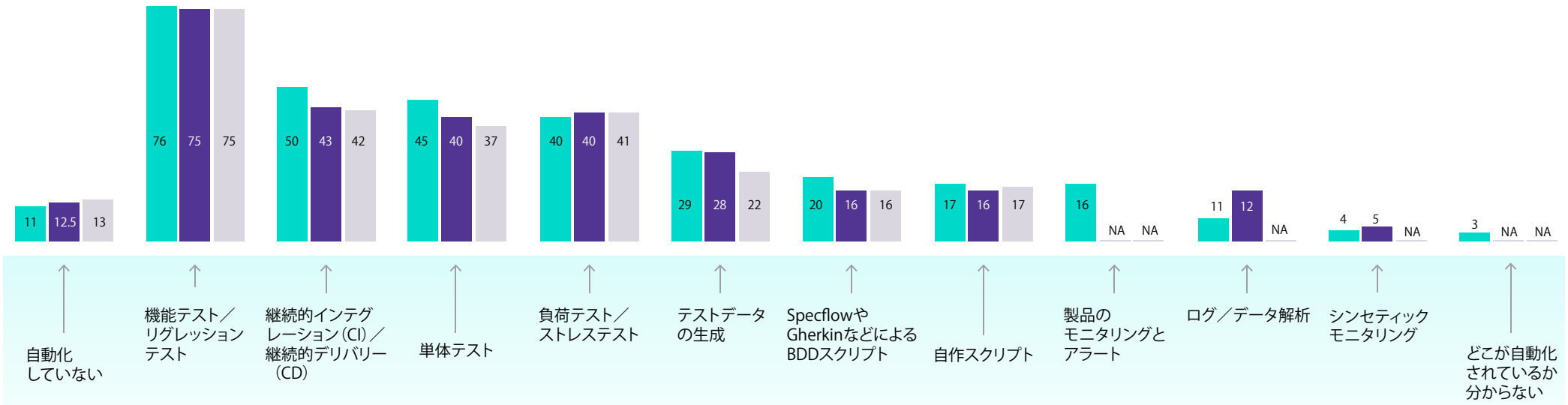
機能テストシナリオの「自動化カバレッジ」の割合 %



© 2019 - PractiTest & Tea-Time with Testers. All rights reserved.

スクリプト化／自動化

あなたの組織では、スクリプトや自動化をどこで使っていますか？ %

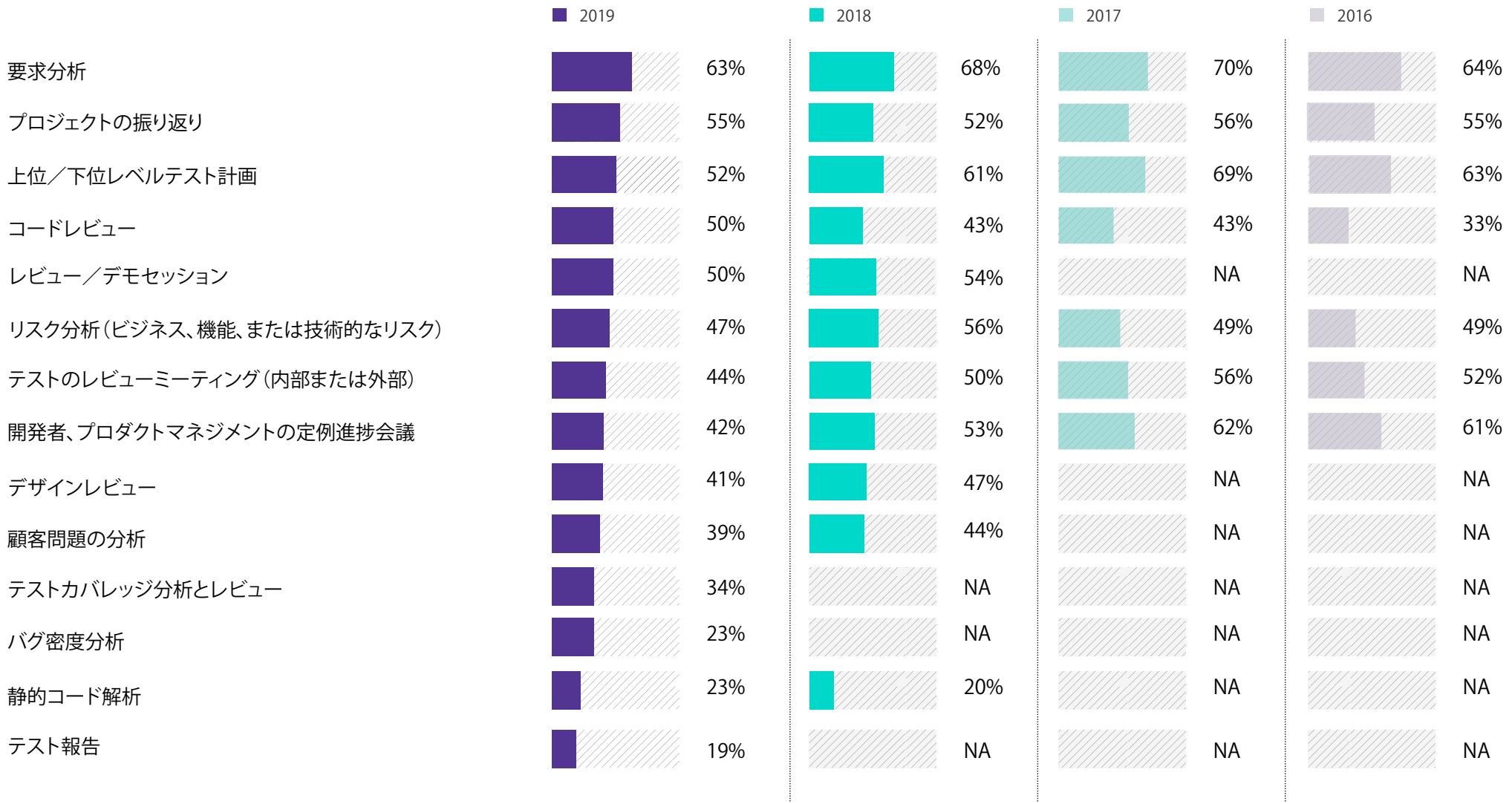


今年の回答ではCIと単体テストは上がっています。それらが相関関係を持って上がっているのは良いことです。また、BDDを使用している組織の割合が増加しているのが分かります。
昨年までと同様に、どれくらいの割合のテストケースが自動化されているかを尋ねました。この質問に対する回答もそれほど変わっていません。

2019 2018 2017

© 2019 - PractiTest & Tea-Time with Testers. All rights reserved.

静的テストの活動

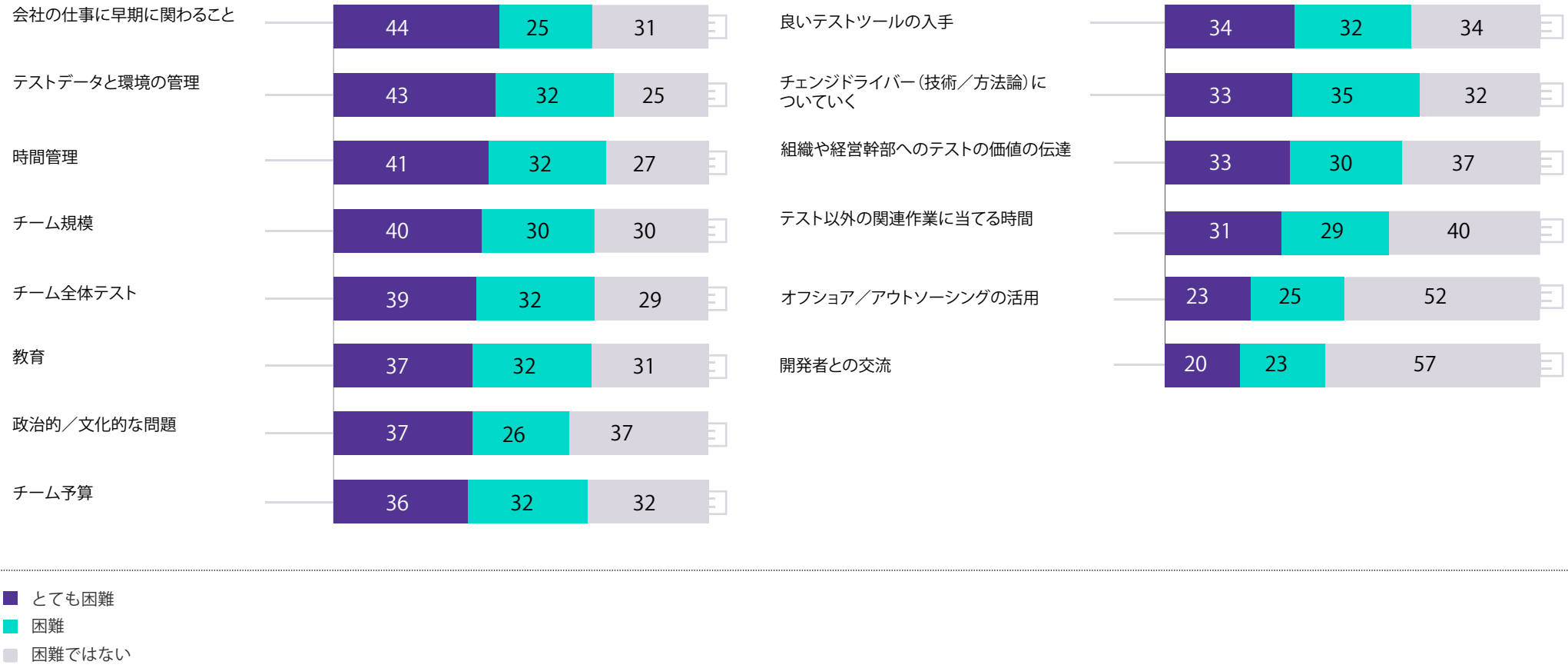


コードレビューや静的コード解析という開発者と行う作業を中心に、いくつかの分野で割合が増えています。その一方で、その他の大半の分野ではわずかながら減少が見られます。より詳細な結論を得るために、今後数年はこの質問について調べなければいけません。

© 2019 - PractiTest & Tea-Time with Testers. All rights reserved.

テストチームの課題 %

あなたの組織のテストチームやチーム作業では、以下の事項の難易度はどれくらいですか？



© 2019 - PractiTest & Tea-Time with Testers. All rights reserved.

テスト方法の変化

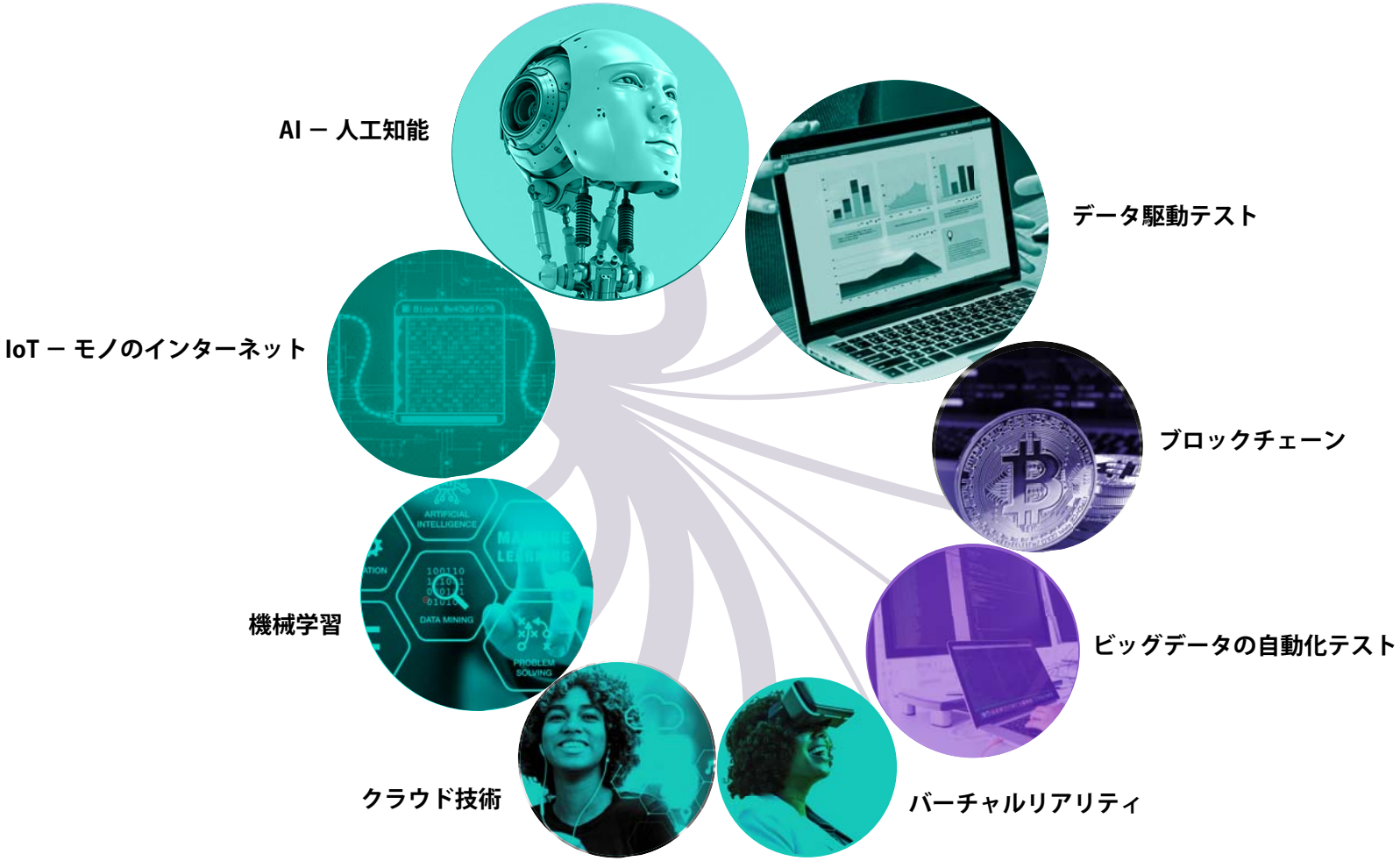
「自由回答」の一部として、チームやプロセスに新しいことをどのように導入しているのかを尋ねることが好きなのですが、かなり興味深い回答がありました。

- テストのダッシュボードを追加しました。変更が与える影響を視覚的に表示し、チームのマインドセットを近代的なテストプラクティスに変える促進剤として利用しています。
- テストの成功を測定するためのメトリクスを導入しました。
- 自動化されたリグレッションテストを毎週実行しています。問題を早期に捉えることができます。
- 開発者をより自動化に関与させています。
- 組織全体にマインドマップを導入しました。
- 開発者がテストをし始めました。
- チーム内にAPIテストを導入しました。
- テストのポジションに開発者を雇い、テストコードベース内のコード品質の向上に取り組んでいます。
- 探索的テストに取り組み始めました。自動化されたユニットテストや機能テストとは良い組み合わせのように思います。今のところかなり良い影響を与えています。少なくとも、テスト対象システムに新しい側面を与えています。
- アジャイルとシフトレフトに向かって動き始めています。これにより、実装後の早い段階でバグを捉えることができるようになりました。
- 非機能テストに焦点を当て始めました。

© 2019 - PractiTest & Tea-Time with Testers. All rights reserved.

テストの世界で今後3 ～ 5年で重要になる新しい技術やテーマ

今後何が「注目の話題」となるかを理解するために回答者へ向けた別の自由回答形式の質問になります。若いテスターや、これからどの技術に対して自分の知識を深めるか自問自答している人たち、ここに興味深いアイデアがありますよ！



© 2019 - PractiTest & Tea-Time with Testers. All rights reserved.

追加のテスト以外の作業

- チームのコーチング
- 本番環境へのデプロイ
- ユーザーストーリー執筆の監視と警告
- 新しいチームメンバーへの研修
- クロスファンクショナルビジネス分析
- 機能の実装
- リリース調整
- CI／CDパイプラインの開発
- カスタマーへのサポートとデモンストレーション
- 顧客コンサルタント
- UXデザイン
- スクラムの実装

© 2019 - PractiTest & Tea-Time with Testers. All rights reserved.

自己啓発

© 2019 - PractiTest & Tea-Time with Testers. All rights reserved.

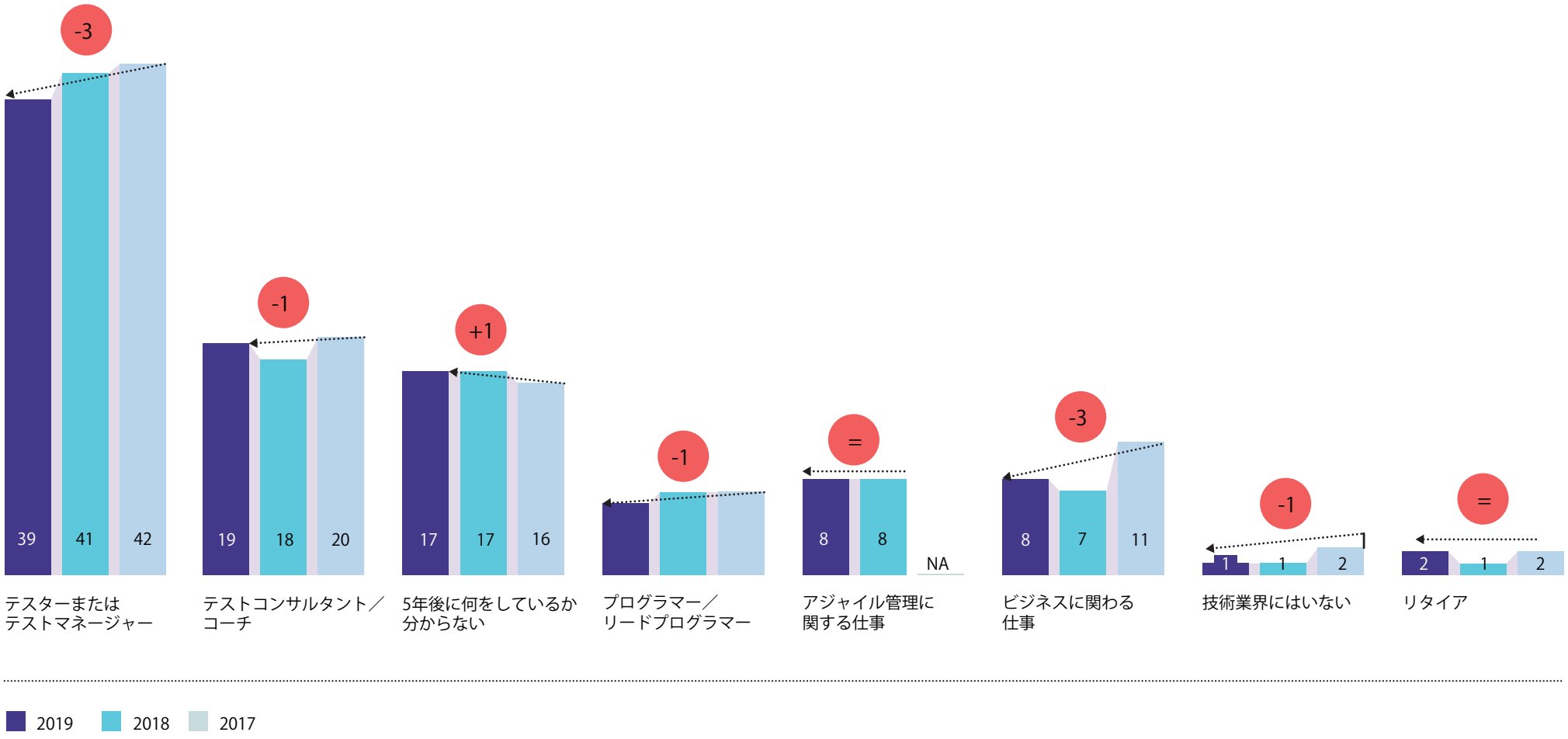
成功するために必要なテストのスキルと知識

	非常に重要	重要	重要でない
コミュニケーションスキル	75	23	2
機能テスト自動化とスクリプト作成	63	33	4
APIテスト	60	36	5
Web技術とテスト	59	37	4
一般的なテスト方法論	53	42	4
セキュリティテスト	47	45	8
テスト自動化パターン、原則、実践	47	46	7
アジャイル開発方法論	46	44	10
テスト／実験の設計	45	48	7
コーチング／トレーニングスキル	40	49	11
パフォーマンス／負荷テスト	39	52	8
モバイル技術とテスト	37	54	9
対顧客スキル	36	45	19
データ分析	32	54	14
マイクロサービステスト	30	51	19
プログラミングスキル	29	57	14
クラウド環境のテスト	27	51	22
ビジネススキル	22	50	27
機械学習テスト／AI	21	51	28
エンタープライズ系ソフトウェアやプロセスのテスト（ERP、CRM、BIなど）	20	51	29
ビッグデータテスト	19	56	26
IoTテスト（モノのインターネット）	18	51	31
組み込みシステムとテスト	17	54	29
運用管理	14	53	33

© 2019 - PractiTest & Tea-Time with Testers. All rights reserved.

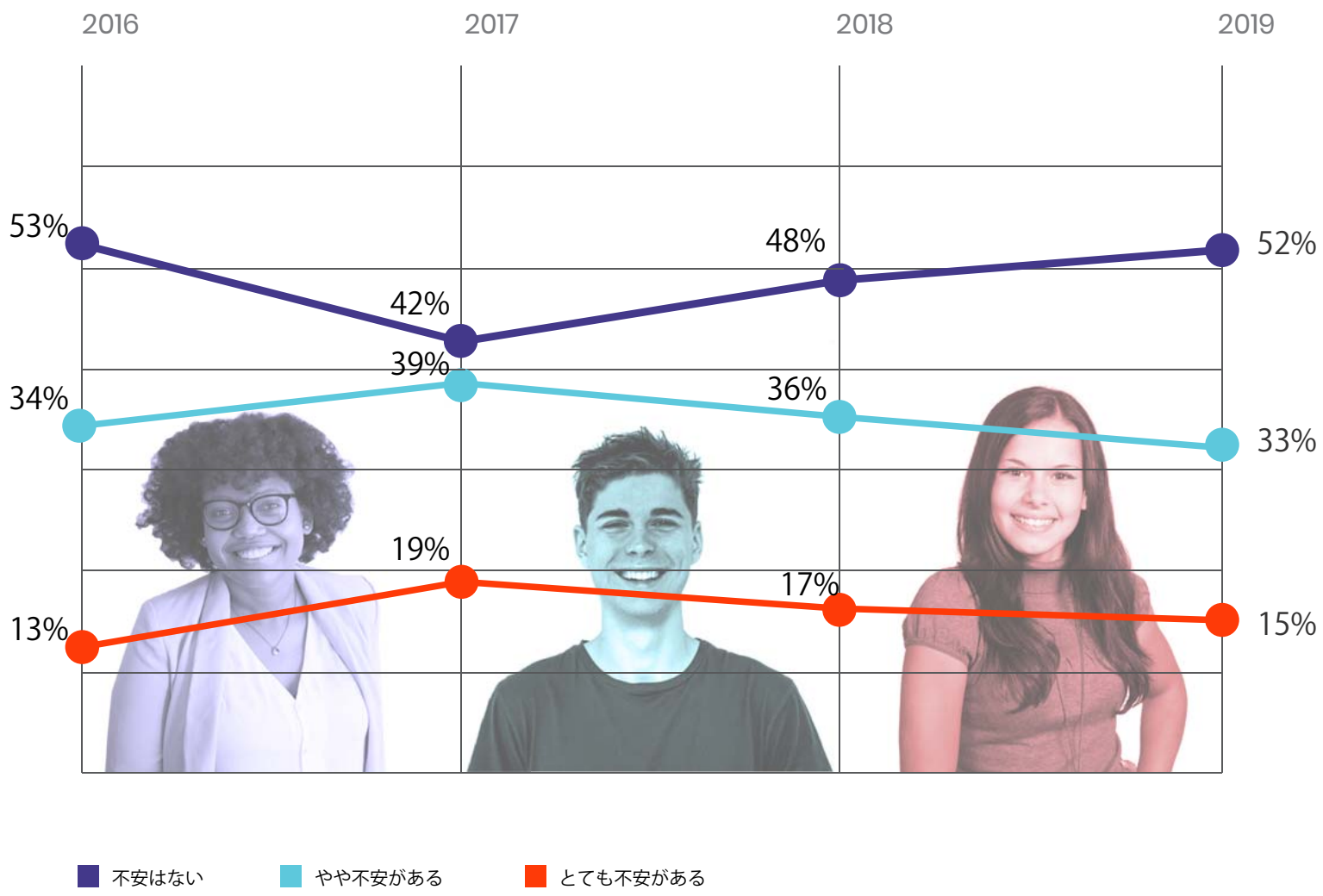
テストの未来 %

5年後の自分は何をしていると思いますか？



© 2019 - PractiTest & Tea-Time with Testers. All rights reserved.

職業の安定性についてどれくらい不安がありますか？



© 2019 - PractiTest & Tea-Time with Testers. All rights reserved.

テスターを採用する時マネージャーは何を重視しているのでしょうか？

テストの仕事の採用において新たな望ましいスキルは何ですか？

- テスト自動化／コーディング能力を特に重視
- 自己学習者
- プログラミングスキルと製品／ビジネス思考
- 問題解決力とマルチタスク能力
- （開発者とうまくやっていける）チームプレイヤー
- 主張を持ち創造的に考えられる
- 熱意
- より多くのフロントエンドの経験
- 優れたコミュニケーションスキルと人間関係の維持能力
- 負荷テストとセキュリティテストの知識
- 問題解決／プロアクティブ／技術的スキルによる結果指向
- IoT知識の気づき
- 自動化ツールの経験
- コーチングやリーダーシップ
- アジャイル関連スキル
- 適応性と柔軟性
- CI／CDの経験
- パズルが得意な人

理想的な未来のテストの世界

テスターが変化または改善を望んでいること

今年のテストの現状調査から私たちは何を学んだのでしょうか？

このレポートの中の情報から私たちそれぞれが何か異なるものを得ることを確信しています。それは、私たちの仕事の多くでいつも気づかされるように、すべてはコンテクストによるからです。

このレポートを初めて読む人は、この業界の他の人たちの働き方の遍歴がより良く理解できるでしょう。「若い」テスターは、将来の職業的成長の幅広い機会と大きな課題を理解することができるはずです。マネージャーやリーダーは、間違いなく自分たちの現在の状況が多くの人と同じだと分かるでしょうし、以前は明らかではなかったかもしれない方法で前進するアイデアが得られるでしょう。

あなたが誰で、どこにいて、どういう肩書きなのかに関わらず、あなたが利用できるいろいろな経路と選択肢を示す地図を自分自身で描くことができるでしょう。これが私たちが集めた情報の特質であり、スナップショットだけではなく、変動する傾向も示しています。

このレポートで「見える」ものを正確に定義することは非常に困難です。それに対する最良の表現は、変化や、ひょっとすると進化の「感触」かもしれません。

時間とともにチーム間の境界がぼやけ、テストと開発のコラボレーションが増強されていることを示す多くの兆候が見えています。

また、テスターの責任が拡大していることや、チームのタスクや課題のさまざまな分野で私たちに求められている追加のタスクも見てとれます。テスト対象の技術、テストに使用された技術、および将来関連してきそうな技術についても、いくつかの細かな変化と拡大が確認できました。

さらに重要なことに、私たちはテスターがいかに彼らの職業の将来についてより広く明るい見通しを持っているかが分かります。

私たちはすでに来年は何を質問して、どのような情報を収集したいのかを考えていますが、具体化するにはもう数ヶ月かかりそうです。

ではまた来年！

Lalit and Joel

私たちについて

Practitestについて

PractiTestはQAとテストのマネジメントの全てをサポートする統合ソリューションです。本ソフトウェアはプロジェクトに関する情報の統制やテスト結果の組織への報告を中心に、テストや開発プロセスのコントロールをサポートします。本ソフトウェアは要求仕様の整理、テストの作成と実行、バグトラッキング等をサポートしています。さらにJIRA、Bugzilla、RedMine、Pivotal Trackerといった有名なバグ管理ツール、Selenium、JUnit、SoapUI、QTP、Jenkins、Circle CI等の自動化ツール、Slackなどの開発効率を高めるアプリケーション等と統合可能です。

より詳細と15日間の無料トライアル版についてはWebサイトへ：**https://www.practitest.com**

Tea-Time with Testersについて

Tea-time with Testersは、世界に配信されているソフトウェアテストの（オンライン）月刊誌です。これまでにない変化の波がビジネスやテスト業界、テスターのコミュニティに押し寄せてきている現在、Tea-time with Testersは、明日のチャレンジに必要な最新情報をお届けすることを約束します。それらの情報は、ソフトウェアテストの世界をさらに深く、完全に理解するのに役立つことでしょう。2011年の創刊以来、本誌はテスト刊行物の関係者にとってひとつのベンチマークになっており、本誌がソフトウェアテストの理論や考え方に関する真摯な報告を初めて行いました。そして、改めて、技術的／企業ジャーナリズムの全く新しいジャンルにより近く、より鋭く迫る最初のものになろうとしています。本誌は、世界中のテストコミュニティにおける唯一の月刊誌であり、そのコンテンツの品質、執筆陣、独特な情報提供で知られています。現在、Tea-time with Testersは、世界の英文テスト雑誌の中で最高の発行部数と読者数を誇っています。

より詳細はWebサイトへ：

http://www.teatimewithtesters.com/

© 2019 - PractiTest & Tea-Time with Testers. All rights reserved.

ご協力いただいた方々

メディアスポンサー

software testing tools

QUALITY TESTING

RTC

QUALITEST

InfoQ

ブログ

ASKTESTER
Keep Asking - Keep Learning

Hiccupps

Testing Curator Blog
Where Testers find what they're searching for!

Derk-Jan de Grood

Test Pappy

TEST RETREAT

ADVENTURES IN QA

TestingBaires

Qxf2 Services

阿奎的博客
www.akui.site

CHRIS KENST

Ben Linders
Consulting
www.benlinders.com